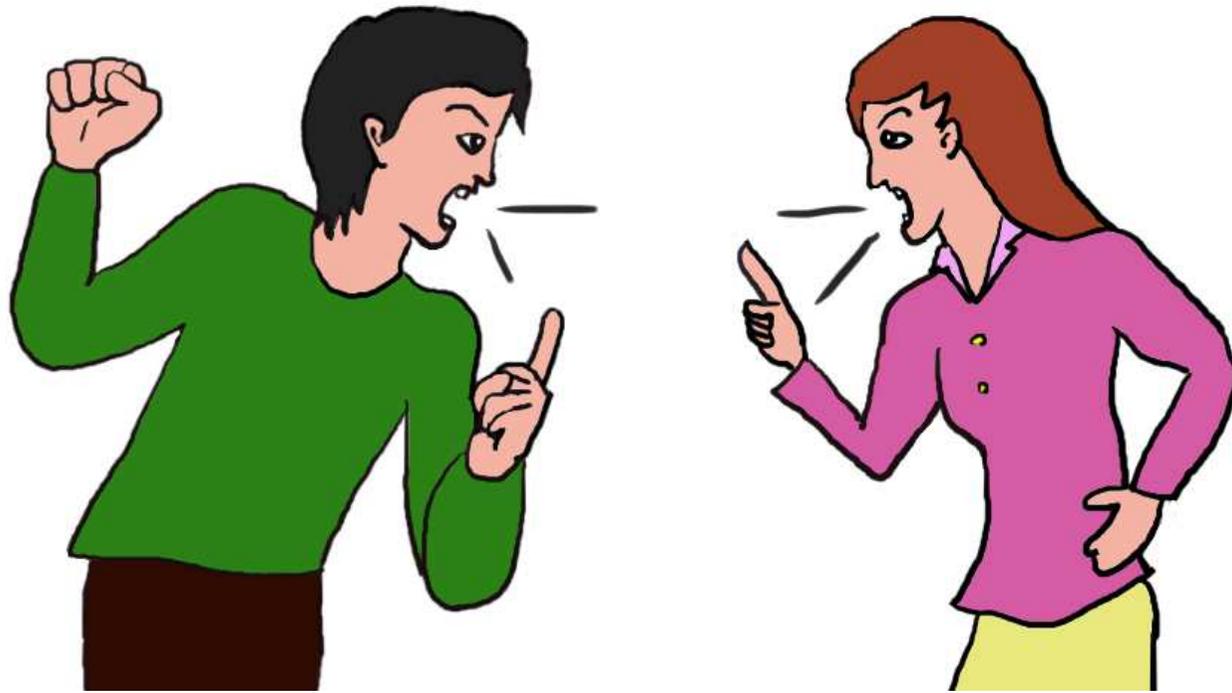


大事な議論



東郷 潤

人々が、真剣に議論しています。

彼らはテロリストだ！



違います！



あの人たちは、奴隷にされたのよ！



奴隷なんかじゃない。



あれは、侵略戦争だ！



自衛の戦争だ！



どうやら、それぞれの出来事をどの言葉で表現するかで、揉めているようです。



あれれれ、嘘をついてまで、特定の言葉を使おうとする人がいます。



あれれれ、暴力をふるってまで、特定の言葉を拒否する人もいます。

何でそんなに特定の言葉にこだわるのか、ちょっと聞いてみましょう。

たかがどの言葉を使うかで、なぜそんなに一生懸命になるんですか？ 嘘をつき、喧嘩をしてまで

これで善悪が決まるんだよ！
言葉にはニュアンスがあるんだから

なんのために善悪を決めるんですか？

悪をぶっつぶすためさ



誰かをぶっつぶす



・・・選択は

それだけですか？

あとがき 一絵本「大事な議論」

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、これらの錯覚は人類の長い歴史の中で、多くの悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。(詳細は、下記WEBの絵本集、拙著「善悪という怪物」をご参照ください)。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org